

あなたは どうします？

- 西日本防災システム

あなたは 地下鉄に乗っていましたが その時津波が・・・

地下鉄が止まって津波が来たら・・・

来るであろう南海トラフ巨大地震に備えて、神戸市では2015年度から、津波の浸水想定区域内を走る市営地下鉄海岸線(三宮・花時計前から新長田間)で大容量蓄電池の整備を始めます。災害による停電で電車が駅間に停止すれば、地下空間の浸水に乗客が逃げ遅れ、深刻な被害が発生する可能性があります。避難をより迅速にするため、電源が遮断されても最寄り駅まで運行できる電力の確保を目指しています。完成は16年度末のようです。

地下鉄海岸線は中央区から兵庫区、長田区の南部を通っています。巨大地震発生時、各区の沿岸部には3メートル前後の津波が約90分後に到達すると想定されています。みなと元町駅(中央区)から和田岬駅(兵庫区)の4駅は、浸水想定区域内に入っています。兵庫県内の地下を走る鉄道で浸水想定区域はここだけです。

浸水想定区域内の駅間で最も距離が長いのはハーバーランド駅(中央区)から中央市場前駅(兵庫区)の約1.4kmです。万が一電車が停止すれば、乗客が降車するだけで約30分かかり、最長700メートル地下道を徒歩で駅に向かうこととなります。津波到達までに避難できる計画ですが、ワンマン運転のため、電車停止から避難誘導まで運転士1人がすべてを担当しなければいけません。車いすなどの介助が必要な人がいる場合などは、さらに時間がかかります。

蓄電池は、通常の電力供給時、神戸市内にある同地下鉄変電所内で充電されていて、停電しても、脱線や線路上に障害物の散乱などがない限り、蓄電池からの送電で最寄り駅まで徐行可能となります。東日本大震災では、仙台市地下鉄が停電のため、2本が駅間停車しました。津波は到達しませんでした。乗客の避難が完了するまで約1時間かかったそうです。東京駅から半径30キロ圏内では少なくとも106本が駅間停車し、乗客の徒歩避難完了まで、平均2時間39分かかっています。その一方、駅まで徐行できた178本では、避難完了まで平均44分だったようです。明らかに駅に到着する事の重要性が分かります。大阪市営地下鉄も14年度から大容量蓄電池の整備を始めているようです。



西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

